

平成 28 年 9 月 2 日

嬉野市議会

議長 田口 好秋 様

文教福祉常任委員会

委員長 山口 忠孝

## 文教福祉常任委員会報告書

平成 28 年 6 月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第 107 条の規定により報告する。

付託事件名

### 健康づくりの取り組みについて

調査の理由

健康づくりは、個々人による日頃の運動や食生活の積み重ねであるが、行政も各種検診や健康診査等を積極的に後押ししている。県内でも「うらら健康マイレージクラブ」として先進的な取り組みを行っている鳥栖市について現状調査を行った。

調査の概要

鳥栖市の「うらら健康マイレージクラブ」の取り組みについて

調査日 7 月 5 日 場所 鳥栖市役所

応対者 健康福祉みらい部 健康増進課長兼保健センター所長 坂井 浩子氏  
健康福祉みらい部 健康増進課 保健予防係 主任 古川 征史氏

#### 「うらら健康マイレージクラブ」

※参考資料としてうらら健康マイレージカード(写し)を添付

#### 1 事業導入の経緯

健康寿命を延ばすためには、自覚症状のない生活習慣病の一次予防が重要であり、今まで健康に対して感心がなかった人々が関心を持つような施策を展開する必要があると考え、健康マイレージ制度を導入した。平成 23 年度を準備間とし研究協議を重ね、平成 24 年度 6 月から事業開始し、少しずつ改良しながら

現在に至っている。

## 2 事業概要

- ①目的…ポイント集めを楽しみながら、健康づくりを実践し、健康づくりの継続につなげる手段としている。
- ②仕組み…期間は半年ごと(6月~11月、12月~5月)で参加は随時可能であり、20歳以上で本市に在住または、本市に通勤・通学する者を対象。小学生は学校を通じて全員参加している(平成27年度は大人約2100人、子ども約4900人)。
- ③健康づくりの実践として、自分へのチャレンジ賞…個人で健康づくりの目標を立て、それが実践できたら1日5ポイント。参加しま賞…健康診査等の受診やイベント、地域行事等の参加(心の健康づくりとして)でポイント加算。
- ④ポイント交換…500ポイント 500円相当でクオカードや図書カード、市が実施する健康診査や各種がん検診の無料受診券等と交換。また、市内の保育園や幼稚園、小中学校、各地区まちづくり推進協議会へ寄附することもできる。さらに、交換未使用のポイントは、繰り越して使用できる。

## 3 事業会計について

平成25年度決算…129万円。平成26年度決算…162万円

平成27年度予算…358万円(半年から通年に)。平成28年度予算…377万円

## 4 事業効果について

事業単体での効果が表れにくいですが、参加者の意識が向上してきて、一定の成果を得ている。

## 5 課題と今後について

- ①ポイントの交換申込者数が少ない…商品の魅力や社会貢献認識の低さ
- ②事業効果が見えにくい…長い期間をかけ、継続しなければ見えてこない。
- ③事業の認知度が低い…若い世代の参加が少ない。地道に進めている。
- ④健康に関心の低い若年層を取り込むため、マイレージカードデザインの見直しや交換対象賞品を充実させていく。

## 委員会の意見

健康づくりは、医療費負担軽減はもちろんの事、健康寿命を延ばし、病気に罹らず心豊かに生きていくための必要条件である。また、物が豊かな現代社会では、自覚症状のない生活習慣病予防が重要であるが、まだその認識が低いのが現状である。

高齢者になると、日々の健康が目に見えてくるので関心も高いが、若い独身

者や子育て世代では、健康であるのは当たり前で健康づくりには関心も低く、日々の生活に忙しい。このような状況の中で、いかに健康づくりに関心を持ってもらい、各種健康検診を多くの人に受診してもらうのか、担当部署は頭を悩ませるところである。今回、視察を行った鳥栖市が実施している「うららマイレージクラブ」の取り組みは、ある一定の効果がみられる。

- ・子どもたちへの健康に対する意識付けや食育を学校を通じて、習慣づけることができる。
- ・ポイント制なので楽しみながら取り組むことができる。
- ・ポイントを地域や学校などに寄附して、社会貢献ができる。
- ・地域の行事やイベント参加も心の健康づくりとして各種団体と連携している。

このような効果がみられるが、一方で課題も散見する。

- ・担当課の事務作業が増大してきている。
- ・若年層向けにスマホを使った取り組みも研究したが、コストがかかり過ぎる。
- ・ポイント交換賞品の拡充

鳥栖市では、健康づくりの一つの手段として、この「うららマイレージクラブ」を今後も地道に続けていくとのことである。また、3月議会における当委員会報告でも、長野県上田市が同じようなチャレンジポイント制度に取り組んでいる事例の報告がなされた。

嬉野市は健康都市づくりをめざしておりこれらの事例は大いに参考になると思う。これからのまちづくりの視点からも「健康づくり」はキーワードとして重要度を増してくると思われるので、本市でもこのような施策を取り入れてはどうかと思う。